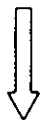


知識や情報とクライアントの性行為との関連の中で、クライアントがとっているリスクを明確化していく。



先ほど確認したHIVの感染経路のことをもう一度思い出してください。そして今話にあったあなたが行っている性行為を照らし合わせたときに、どういったリスクがあると思いますか？

リスク低減のために、これまでどういったことを試みたり工夫してきたのかについて話し合う。



これまでのセックスの中で、感染リスクを低くするために工夫されてきたことがあると思うのですが、その中にはどういったものがありますか？

その試みの中で、うまくいったこと、いかなかったことを聞き出して行く。



その中でうまくいったことがあれば、それはどういったときうまくいったのか、そしてもしうまく行かなかった時は、どういう理由でうまくいかなかったのかを一緒に考えてみましょう。

その試みや工夫をこれから先どう続けていくのか、あるいは新しい展開をもたらすためにはどうすればよいのかについて話し合う。



今回いろんな話をするなかで知識の確認ができ、リスクも前よりもはっきりしてきたと思うのですが、これからの新しい展開が見られそうですか？もしそうならば、どういったことをしたいと思いますか？

HIV抗体検査を受検することを、これらの展開の契機としていくかについて話し合う。



抗体検査の受検はそう簡単なことではなかったと思うのですが、この経験を今後どういうふうにかしていきたいと思いますか？

その導入にはどのような実践的なステップが必要なのかについて話を展開していく。



まず始めにどこから手を着けていきたいですか？
明日からの新しい取り組みって何が考えられるんだろう？その第一歩は？

検査結果をセックスのパートナーとシェアするのかといった話題をきっかけに、人間関係の中でのHIV感染予防について話し合う。



検査の結果を誰かに伝える気持ちはありますか？
あなたのセックスパートナーに今回の検査の結果を伝えるということに関して、どういうふうに感じていますか？

検査結果の告知についての情報を提供し力づけを行う。



明日の5時以降に結果をお伝えできますので、受付番号の札を必ず持ってきてください。結果を受け取るというもう一つの作業が残っていますが、明日、来れそうですか？

検査場へ足を運んだこと、カウンセリングに時間を割いてくれたこと、一緒に話が出来たことなどへの感謝の気持ちを伝える。



今日はこうやって時間を割いていただいてありがとうございました。いろんな話ができ良かったです。

カウンセリングの内容を要約し、検査を受けるという判断がなされた場合、採血へ案内する。

今日は受検の動機から始まって、知識の確認、リスクの明確化、これまでのあなたが行ってきた予防のための工夫、そしてこれからの取り組みなどについて話をしてきましたが、何か質問はありませんか？

検査期間中は相談だけでも受け付けていますので、もし何かあればこの会場にまた来てください。

ここまで来たからには検査は絶対に受けなきゃいけないと言うものではありません。もし受けたくないのであれば、それはそれでOKです。どうなさいますか？

わかりました。それでは採血の方へご案内します。

8. HIV抗体検査後のカウンセリング — 陰性の場合

結果が陰性の場合、カウンセリングの本質的な目的は、クライアントが結果を正確にかつ積極的に受け止めるための支援を提供することにあります。この受け止めがきちんとなされた場合、将来においてクライアントは、HIV感染から自分を守ろうとする準備をより順当に整えて行くことができると考えられるからです。

クライアントは、ある時抗体検査の受検を考え始め、そして受検を決心します。検査場の情報を集めどこで検査を受けるのかを決め、様々な恐怖や不安や躊躇を越えて検査場へ足を運び、採血されます。そして、いろいろなことに頭をめぐらした1週間の待ち時間を経て、再度検査場へと足を運び、陰性の結果を受け取ります。こういった一連の作業の帰結点としての検査後のカウンセリングを考えていくと、クライアントのこの経験を、将来おける予防へ役立たせるアプローチが大切になっていきます。カウンセラーは、スキルを駆使して、この目標を達成するためにクライアントと対峙します。

ポイント：

- クライアントにとって、HIV抗体検査受検を考え始めてからの一貫した作業の帰結点としての結果告知がある
- ウィンドウピリオドとの関連において、陰性の意味をきちんと伝える
- 陰性の結果をどう将来における予防に繋げていくかを話し合う

以下はそのガイドラインです：

カウンセラーはまず自己紹介し、あまりかたくならずにリラックスした雰囲気を作るようにします。また、このセッションがどう進められて行くのかを説明して、個々のセッションはそのクライアントに合わせて進行して行くものであり、あくまでもその中心はクライアントであることを確認してください。

↓

私の名前は〇〇です。今日検査結果のお知らせと相談を担当させていただきます。どうぞよろしく。
今日ここで話されることは、あなた個人を特定できる形では決して外部に漏れることはありませんからご安心ください。そしてこの相談中に答えたくない質問などがあれば、答える必要はありませんので、どうかリラックスしてお付き合いをお願いしたいと思います。

結果告知を受けるために抗体検査へ足を運んだことへの賞賛と謝意をあまりしつこくならず表明します。

↓

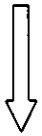
今日ここへ結果受け取りにこられたわけですが、いかがでしたか？

採血から結果告知を待つ間の時間がどうであったのかについての質問をしてみてください。

↓

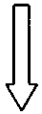
1週間の待ち時間があったわけですが、その間どうでしたか？

まずどんなことに関してでもよいから質問がないかを聞き、結果告知のタイミングをクライアントにフォローする形でつかんでいきます。多くの場合、クライアントは結果を一刻も早く聞きたがると思われます。結果を直接的に中立性のある声で伝えます。次に進むタイミングをつかむために、クライアントの反応を待ってみましょう。



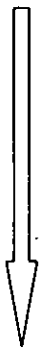
これから検査結果をお知らせしますが、その前に聞いておきたい質問などありますか？
あなたの抗体検査の結果は陰性でした。これはあなたの血液の中にHIVの抗体が見つからなかったということを意味します。

言葉あるいは言葉以外で表現されたクライアントの感情と向き合い、その感情の妥当性をクライアントに伝え、支援を提供してください。



ホッとされたように見えますが、今のお気持ちはいかがですか？
そうですね、ホッとしますよね。陰性で良かったですね。

クライアントにどういったことを考えているのかを聞き、またクライアントが持っている情報についても聞き出して行きます。ウィンドウ・ピリオドやごく最近のリスクのある行為を理由としての再検査が必要である場合、そのことについて話をしてください。



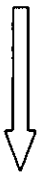
今どういったことをお考えですか？
検査前の相談でお話ししたと思うのですが、ウィンドウピリオドということ覚えていますが？それと関連して今回の陰性という結果をどういうふうに受け止めておられるのか、お聞きしていいですか？
ということは、今回の結果は3カ月前の結果であって、現時点での結果ではないということはお解りですね。
せっかくホッとされているのに水を差すようで悪いのですが、もしこの3カ月間に感染の危険性のある行為があった場合、再検査をお受けになるということも考えていただきたいと思います。

もう一度ウィンドウピリオドとの関連の中での陰性結果の意味を伝えましょう。今回の陰性結果は、少なくともある部分ではクライアントがいつHIV感染の危険性のある行為をしたかに左右されるものであることの理解を明確にすることは大切です。クライアントに最近のリスク行為がいつであったのか質問してみてください。



ここで多分実感なさったと思うのですが、抗体検査というのは、このウィンドウピリオドというのがありますので、3カ月前の状態を検査するものなんですね。
それでは今日からさかのぼっての3カ月間に、感染リスクの高い行為というものはあったのでしょうか？
もしあったとしたらそれはいつ頃ですか？
それは具体的にどういった行為だったのでしょうか？

次にクライアントの気持ちについて聞き、検査を受けようと思った動機との関連性を探ってみましょう。将来における予防行為について話し合う前に、クライアントの感情や検査への決意にいたった状況をもう一度話し合っておくということです。



こうやって話をうかがっていると、感染が心配な行為があつて、思い悩んだ末の決断として抗体検査をお受けになった。そして、今日その結果が陰性であると分かったわけですね。それに、あなたはそれを周りの人に相談せずにお一人でやってこられたわけですね。こういったことを全部振り返ってみて、どうですか今のお気持ちは？

リスク削減に向けてのアイデアについて話し合います。ここで、HIVの抗体検査という一連の作業を、クライアントの行動変容のきっかけやとするために、リスク削減について話し合う機会を持つ必要があります。ここが介入の大きなポイントとなります。共感を豊かに持ち、ノンジャッジメンタルなアプローチでクライアントに接します。そして、必要であればさまざまな情報の提供や紹介サービスを行いましょ。



HIVの感染予防というのは、先ほど言いました「感染が心配な行為」をできるだけ減らしていくということなんですよ。それはお解りになりましたか？
それでは、「感染が心配な行為」を理由としてお受けになった今回の抗体検査を一つのきっかけとして、これからどういうことをやっていきたいとお思いますか？
そうですねそれは良いアイデアですね。ここに役に立ちそうな情報がありますので、どうぞお持ち帰りください。

受検の意思と行為への賞賛を行い、それを短期長期にわたる目標への取り組みを進めて行くための力づけにつなげます。



抗体検査を受けるということは、その理由に関わらず大変なことです。今日ここまでこぎ着けられて、そして結果が陰性だったということはほんとに良かったと思います。お疲れさまでした。
HIV感染からご自分を守っていくという大きな目標が、今回よりはっきりとお解りになったと思うので、先ほどはなされたいろんなアイデアに取り組む中で、是非その目標を達成していきましょう。

来場への謝意を今一度表明し、また告知後の相談に時間を割いてくれたことにも感謝の意を伝え、出口へと案内します。

何か質問はありませんか？

今日はご足労ありがとうございました。それからこうやってお話に時間を割いていただいて、ありがとうございました。とっても良い話が出来たと思います。

それでは、お疲れさまでした。

9. HIV抗体検査後のカウンセリング — 陽性の場合

結果が陽性の場合、カウンセリングの本質的な目的は、クライアントが結果を正確な情報や知識を持って、積極的に受け止めることへの支援を提供しようとすることにあります。このことは、クライアントが将来においてHIV医療ケアや、社会的支援を手にいれて行くため、適切なステップを踏むことに、大きく役に立つと考えられるからです。またその結果として、他者への感染を回避するための準備が整えられることとなります。重大な告知を受けたクライアントの気持ちを尊重し、共感的な対応が必要ですが、同時に専門的なアプローチも求められています。過剰な感情移入は避け、カウンセラーはスキルを駆使して、この目標を達成するために以下のガイドラインに沿ってカウンセリングを進めていくこととなります：

- カウンセラーはまず自己紹介し、あまりかたくならずにリラックスした雰囲気を作るようにします。また、このセッションがどう進められて行くのかを説明して、個々のセッションはそのクライアントに合わせて進行して行くものであり、あくまでもその中心はクライアントであることを確認してください。
- 質問の有無をクライアントに聞いて、クライアントのリードに従って告知のタイミングをつかんで行きます。結果を直接的に中立性のある声で伝えてください。次に進むタイミングをつかむために、クライアントの反応を待ちましょう。
- クライアントはどう反応して良いのかを見失い、呆然とすることが考えられます。あるいは冷静を装い、早く切り上げたいと焦りを見せるかもしれません。まずはクライアントの反応を待ってください。クライアントを急がせるような言動は控え、クライアント自身の反応の仕方やそのペースを尊重してください。
- クライアントがどう結果を受け止め理解しているのかを探って行き、間違った理解を訂正し、不足している情報を補足して行きましょう。
- 告知へのクライアントの感情に耳を傾け、その感情を否定することなくまずは受け止めてください。そして、不安や絶望感との取り組みに支援を提供し、もしそれが適切と思われる場合、その感情の妥当性をクライアントに伝えてください。
- クライアントの持っている社会的ネットワークについて質問をし、検査結果を誰に伝えて行くのかを一緒に考えてみてください。パートナー告知についても話し合みましょう。またこういった他者への告知の及ぼす影響に関しても話しあっていきます。誰にいつどういう方法で検査結果を知らせて行くのかを慎重に考えて行き、支援を最大限に、ダメージを最小限に抑える方法を模索して行くことがたいせつです。
- HVI 専門医療ケアに関して話し合いを行いましょ。クライアントが健康であっても、また結果に大きなショックを受けていたとしても、このことは行われなければならないものです。早期に専門医の診察を受けることの大切さと利点を説明してください。免疫力のモニタリングや TB や STD の予防的治療など、HIVに感染した人のための医療ケアについて説明を行ってみてください。
- クライアントのこれからの取り組みについて話し合い、実行して行くためのエンパワメントを提供しましょう。安易な慰めなどをせずに、現実的に希望のもてることを話して行くことが大切で

す。また「今日これからどうやって家へ帰るのですか?」、「今夜、誰か一緒にいてくれる人はいますか?」あるいは「このことを誰に話そうと思っているの?」といったクライアントが検査場を出た後、結果に対応するために決めなければならない現実的なことに特定した質問を發して、クライアントが現実へ目を向けるような支援を提供しましょう。

- 新規に特定された適切な情報や、関連サービスへの紹介などを提供してください。その際それらの情報は話し言葉ではなく、書かれたものとして提供されなければなりません。また紹介先などが多ければ多いほどよいというものでもないのです。情報量の多さにクライアントが氣押されないよう注意が必要でしょう。クライアントの反応を見て、紹介先の優先順位を決定して行ってください。最後に質問の有無を再度確認してください。

10. セクシャリティーに関する基本的な言葉の意味

セクシャリティー

日常会話の中でセックスという言葉が使われるとき、その多くの場合、行為としてのセックスを意味します。それに比して、セクシャリティーという言葉は、未だにはっきりとした定義が定着せず、様々な文脈で使われていると言えるでしょう。日本語では性と訳される場合が多いわけですが、この性という言葉も幅の広い意味があります。要するに、セクシャリティー、あるいは性という言葉は、一口でその意味を現すことの出来ない複合的な概念であるわけです。しかし、大まかに言ってしまうと、セックスとは、先述のように人間の取る行為と理解でき、セクシャリティーとは、性的な存在としての人間の状態を表す言葉、とすることが出来るのではないのでしょうか。

下に、セクシャリティーを構成するものに説明を加えていきます。

ジェンダー（性別）

人間は性別をもって生まれてきます。まずここで言うジェンダーは、社会的なものではなく、生まれ持った生理学的な特徴を指します。男性器を持って生まれてきた場合は男性であり、女性器を持って生まれてくれば女性であるということです。次に、少なくとも内実がどうであれ、生理学的に認知されたジェンダーは、様々な公的な書類に性別として記録されます。ここにジェンダーの社会的な要素が加味されていくことになるわけです。こういった作業が進められるとき、その主体である個人は、自分の好き嫌いや意見を言うことはもちろん、自分の性別を認識することも出来ない状態にいます。

ジェンダー・アイデンティティー（性別自己認識）

私たちのセクシャリティーを構成する基本的な要素として、性別自己認識（ジェンダー・アイデンティティー）があります。これは自分自身を世の中にある男性あるいは女性のどちらに帰属して捉えるかということです。生まれたときのジェンダーの区別によって、戸籍上の性別を決定された個人が、その決定をはじめて自我の中で捉えなおそうとするわけです。大多数はジェンダーとジェンダー・アイデンティティーは一致しますが、希にそうでないケースがあります。

トランス・ジェンダー（性同一障害）

かなり少数派ではありますが、ジェンダーとジェンダー・アイデンティティーが一致しない人たちがいます。男性器を持って生まれてきたのに、自分を男性だと思えない人や、女性器を持っているのに、自分を男性としかアイデンティファイ出来ない人たちがいます。しかしこれは、性の対象としての他人と対峙したときの感覚ではなく、その個人の内的な事象としてとらえなければならないものです。

セクシャル・オリエンテーション（性的指向）

もうひとつの重要な点はセクシャル・オリエンテーションで、性的指向とよばれるものです。私たちの多くは性的な成熟の過程において、自分とは違う性へ魅力を感じるようになります。自分の性とは異なる性へ惹かれると言うことで、これを異性愛（ヘテロセクシャル）と呼びますがしかし、ある少数の人たちは、自分と同じ性に性的な魅力を感じるようになります。これを同性愛（ホモセクシャル）と呼びます。異性愛が個人の性的な成熟の中で自然に出現して来るものであるならば、同性愛もそれと同じように自然なものです。それがどちらであろうと、個人がそれを望んだから起こることではなく、何に対して性的に魅力を感じ興奮するのかが明確になっていく課程において、次第に認識されていくものであると言えます。ここで気をつけなければならないことは、同性愛と同性愛的行為の違いです。前者は人間の性的な状態を、後者は人間の取る性的な行動を意味します。例をあげれば同性愛者でも異性愛的な行為を取ることは可能ですし、また異性愛者でも、同性愛的な行為を取ることがあるということです。

セクシャル・アイデンティティー（性的自己認識）

ジェンダーやジェンダー・アイデンティティー、そしてセクシャル・オリエンテーションといった、人間の性的存在を構成する要素をふまえて、トータルとしての性的な自分をどう認識するか、それがセクシャル・アイデンティティーという意味です。しかし認識しようとする性が、性的少数派（セクシャル・マイノリティー）に属する場合、そのマイノリティー性を自認することを避けようとする心の動きが出てくることは理解できます。とくにセクシャリティーは目に見えないものですから、自分の本当のセクシャリティーを隠して、そうでないものを装うことは可能なのです。例をあげるならば、性的指向は同性愛なのに、それを社会的にオープンにしたいくないため、自分をヘテロセクシャルであると認識したうえで、社会生活を送っている人はいるであろうということです。

11. クライアントがMSMの場合特に注意したい点

HIVとセクシャリティー

HIV感染症は、同性愛者と関連した疾患としてとらえられる場合が良くあります。この事実はエイズという病気やHIV感染者へ、社会が持つ反応に一つのパターンを生み出していると言えるでしょう。そこには自分と違うもの、そして良く理解できないものへの恐怖心が浮かび上がり、偏見や差別の可能性が拡大します。しかし、この疾患が持つ複雑な社会的側面や、性感染症であるという事実を理解しようとするとき、そして若年層における感染拡大の予防を考慮するとき、人間の性的発達の中かで、同性愛とはいかなるものかを考える必要があるのではないのでしょうか。またこのことを可能とするために、セックスの話をするときの恥ずかしさや居心地の悪さといった枠を取り払い、人間の性的存在としてのセクシャリティーを、その広い意味において把握し、健康的な性的自己認識の発達に關して理解する必要があります。以下に人間のセクシャリティーを構成する様々な要素を解説します。

HIVと同性愛

人間の性とその性文化の多様性への理解は、効果的なHIV感染予防に欠かせないものです。それに加えて、セクシャリティー、特に同性愛についてカウンセラーがどういった感覚を持っているかは、クライアントと対峙しセックスについてのコミュニケーションを構築する中で、またその人の性行動のアセスメントを行おうとするとき、あるいはHIV予防に関する情報を提供しようとするとき、大きな影響を及ぼすものであるということを知っておく必要があります。

ヘテロセクスイズム（異性愛唯一主義）

非常に強力な文化的仮定として、全ての人が異性愛である、あるいはそうあるべきという考え方が存在します。異性愛のみが正常で正しく道徳的なあり方であるとし、それ以外のものは異常で不自然でかつ不正な性であるとする考え方をさします。これはヘテロセクシャルの人だけが持ちうるものかというだけでなく、ホモセクシャルの中にもこういった考えを持つ人がいます。それは、コミュニティーや家庭環境あるいは教育によってつくられてきたものとするならば、その根は深いものとしてとらえることが重要になってきます。

ホモフォビア

同性愛および同性愛者への恐れと嫌悪、そして糾弾のことを意味します。ホモフォビアはヘテロセクシャル、あるいはホモセクシャルではない人が持つものと考えられがちですが、実際はそうではなく、ホモセクシャルの中にも、自分のセクシャリティーへの嫌悪感を持ち、あるいはコミュニティーの中で可視性の高いホモセクシャルの人への嫌悪を持つ人が存在します。自分のセクシャリティーを同性愛と認識する過程の中で、内在化するホモフォビアはその個人が取り組まなければならない大きな課題とも言えるでしょう。

ヘテロフォビア

ある同性愛者の間で見られる、異性愛者あるいは異性愛的な色合いを持つものへの恐れ嫌悪、そして不信をさすことばです。個人的な経験に由来する場合が多いと考えられています。

カミングアウト

同性愛者が自分の性的な感情を自己および他人に対して認識し、文化的な負のメッセージにとらわれず、自分と同じセクシャリティーをもつ人との友人関係や性関係を構築して行くプロセスをさします。この作業を通して、統合された全人格的な個人としての社会生活が可能となる場合が多いが、様々な問題をあぶり出すプロセスでもあるため、個性性を重視しとらえていかなければならないものです。

資料3

即日検査 カウンセリング・プロトコル

| プロトコル構成要素：検査前のセッション | 時間 |
|---------------------|--------|
| 自己紹介とセッションの説明 | 2-4分 |
| クライアントの自己のリスク受認を高める | 2-3分 |
| 最も最近あったリスク行為の探索 | 2-3分 |
| リスク行為とリスク低減の経験の再考 | 2-4分 |
| リスク行為とそのパターンの統合 | 2-4分 |
| 合計 | 10-18分 |

| プロトコル構成要素：検査前後のセッション | 時間 |
|--------------------------|-------|
| 検査結果の告知-陰性の場合 | 1-2分 |
| 検査結果の告知-陽性の場合 | 5-10分 |
| リスク低減計画の協議 | 4-5分 |
| リスク低減計画のための支援リソースの確認 | 1-2分 |
| 支援リソースの確認と追加の紹介サービスの提供 | 1-2分 |
| フォローアップ（陰性の場合のみ）のアポイント確認 | 1-2分 |
| 合計 | 8-21分 |

自己紹介を行う。

こんにちは、私の名前は〇〇です。あなたが今日このクリニックにおいでになった理由や、STDやHIVに関して気になっていることについて、話をさせていただきます。

カウンセラーの役割について説明する。

カウンセラーとしての私の役割は、あなたが持っているSTDやHIVに関するリスクと、その周辺にある様々な事情の確認を、あなたと一緒に考えていくことにあります。

即日検査の手順について再確認する。

今日あなたは、従来とは違う即日検査と呼ばれる検査を受けられることになります。この検査では検査結果を今日受け取ることができます。

セッションにかかる時間を知らせる。(検査前：15-20分、検査後：10-2分)

今日私たちは二回話をするようになります。一回目は今で15-20分くらいです。それから医師に会っていただいて、それから二回目のセッションが10-20分くらいで、このとき検査の結果をお伝えします。

即日検査の結果を待つ間のカウンセリング中に、クライアントが落ち着きをなくすことがあり得るので、そのことへの対策を考える。

情報は検査結果の意味を明確にする。

約30分でHIV抗体検査結果が分かると思うと、かなり落ち着かないのではと思いますが、ここで私たちが話す情報や、検査や医師の診断は、結果の意味を理解するために助けになると思います。

カウンセリングに集中することの大切さ

このセッションで話されることに、あなたが注意を向けることは大切なことだと思います。

セッションの内容の概略

STDとHIVの感染リスクの探索する。

先ほど申し上げたように、このセッションではあなたのSTDやHIVの感染リスクについて話し合います。

リスク低減の障害となるものを確認する。

これまでどのようにしてリスクの低減を図ってこられたかについて話し合います。

リスク低減の戦略について話し合う。

リスクを低減するためにあなたが達成できそうな変容と、それをどう実現していくかの計画について話し合います。

紹介サービスの提供する。

ここでは取り組めない問題が明らかになった場合、特にSTDやHIVの感染リスクの低減に関することであれば、他のサービスへの紹介を行うことができます。

クライアントが行かなければならない場所やしなければならぬことの再確認を行う。

まず採血をしていただいて、その後私と15分ほど話をします。それから待合室でお待ちになるか、あるいは直接医師のところへ検査をしに行くことになります。検査のあと、私にもう一度会うためにここに戻ってきていただいて、その時検査の結果をお知らせします。

すぐ聞いておきたい質問や気がかりなことについて聞く。

これから先に進む前に、ここで今話しておきたい気がかりなことや質問はありませんか？

クライアントの自己のリスク受認を高める

2-4分

STDクリニック来院の理由について話し合う。

STDやHIVの感染リスクに繋がると思われる行為にはどのようなものがあったのですか？
なぜSTDやHIVのリスクがあると感じられているんですか？

クライアントが取った行為でHIV感染リスクに繋がったものを聞き確認する。

あなたが取った行為の中で、STDやHIVに感染するかもしれないものにはどういったものがありましたか？STDにかかったと思ったので以前このクリニックに来たことはありますか？
セーフターセックスをなさっていますか？

(答えが「はい」の場合)あなたにとってセーフターセックスとはどういったことを意味しますか？

HIVにすでに感染していること、あるいは感染するかもしれないということが、どの程度気がかりになっているのかをアセスメントする。

防備なしでセックスをしたとき、HIVに暴露されるかもしれないということを考えましたか？
との行為、そしてセックスパートナーの誰が、一番心配ですか？

これまでの抗体検査受検歴とその結果をふまえての行動変容について話し合う。

以前HIV抗体検査を受けたことがありますか？

[答えが「はい」の場合]その経験はどういったものでしたか？

カウンセリングや検査結果はHIVに対するあなたの感情に影響を及ぼしましたか？

カウンセラーとあなたが同意したあなたの感染リスクにはどういったものがありましたか？

以前の検査結果が陰性であったことが理由で、クライアントがリスクの高い行為を取っているのかをアセスメントする。

以前の検査で陰性だったことは、あなたの行為にどう影響を及ぼしましたか？

クライアントの注意をリスク行為へ向ける。

あなたが自分の行為について今おっしゃったことから見ると、HIVに感染する現実的なリスクがあると考えられます。

もしあなたがSTDやHIVについて気がかりなことがあるのであれば、今日ここでお話をすべきだと思います。

クライアントが信じていることと行為の間にある矛盾について、あるいはリスク低減に関してもっている混乱した感情につて、確認を行い話し合う。

HIVの医療は随分と良くなってきていますが、根治することはできません。もし人がHIVに感染したら、それは一生ずっと感染したままです。

HIVに感染したら、人生がどのように変わるとおもいますか？

最も最近あったリスク行為の探索**2-3分**

最も最近あったリスクが、誰と、何を、何処で、いつ、どのように起こったのかを探索する。

今日クリニックへ来た理由となったリスク行為について話してください。最後にリスクのある行為〔セックスや針の共用〕をした時のことを話してください。

それは誰かあなたの知っている人との行為ですか？あなたのパートナーについてちょっと聞かせてください。その人とどうやって出会ったのですか？

セックスをするとき何処へ行きますか？それは特別な状況だったのですか、それとも前にも同じようなことがあったのですか？

クライアントにとって受容できるリスクのレベルをアセスメントする。

その人とセックスをするにあたって、気がかりなことはありませんでしたか？その人がSTDやHIVに感染していたことは考えられますか？

その行為はあなたにとってどれくらいしっくりいくものなんですか？

パートナーとのSTDやHIVに関するコミュニケーションのレベルをアセスメントする。

セックスをするということをどうやって決めたのですか？

STDやHIVのリスクについて、あるいはHIV抗体検査の受検の有無について話し合ったことはありますか？

もしその人がHIVに感染しているということが分かっていたら、同じような行為をしたと思いますか？

あなたとあなたのパートナーは、STDやHIVのリスク、あるいはセーフターセックスに関してどのような話をしましたか？

リスク行為を助長する環境を確認する。

その時自分を守ることができなかったのは何が原因だと思いますか？

この出来事の前にリスクのある行為を行ったのは何時ですか？それは今回の出来事と似かよったものはありますか？

そのリスクをとったということは、あなたがいた場所、あるいは一緒にいた人が原因ですか？

リスク行為やそのパターンの原因となっている脆弱性や、きっかけになることについて確認する。

リスクを大きくしてしまうような問題が、過去においてあったとか、あるいは現在も続いているということはありませんか？

お酒を飲むことは、セックスをしようという決心や、安全でないセックスをしてしまうことにどんな影響を及ぼしていると思いますか？

クライアントが信じていることと行為自体との間だの矛盾や、リスク低減についての整理のつかない感情を確認し話し合う。

もしその人がHIVに感染しているということが分かっていたら、同じような行為をしたと思いますか？そのことについて知っているということは、何らかの違いを生み出したと思いますか？

リスク行為とリスク低減の経験の再考**2-4分**

クライアントのリスク行為のパターン（例えば、通常よく起こる、時々起こる、特別の出来事に左右される、等）を査定し、そのパターンの数や新しい、あるいは違ったセックスパートナーの数を明確にする。

どれくらいの頻度で新しいセックスパートナーとセックスをしますか？過去〔3, 6, 9ありは12ヶ月間〕に何人の違ったセックスパートナーとセックスをしましたか？

セックスのパートナーは何処で見つけるのですか？セックスをする前にパートナーのことについてどれほどのことを知っていますか？特定のセックスパートナーを持ったことはありますか？

セイファーセックスの試みの中で成功したものを挙げる。

セイファーセックスがうまくやれた特定の経験を覚えていますか？その時のことについて話していただけますか？それはどうでしたか？何がうまくいった理由だと思えますか？

リスク低減を阻害するものを明確にする。

自分自身を守ろうとすると、阻害してしまうものはなんですか？

あなた自身がHIVに感染する率を低減しようとする中で、何が一番困難だと思えますか？

コンドームの使用が一番難しいセックスパートナーは誰ですか？

リスクの高い行為をとる可能性を大きくしてしまうきっかけや状況を探る。

リスクを取ってしまう（コンドームを使わない）特別な時や状況はありますか？

〔答えがはいの場合〕セーフなセックスとそうでないときにはどんな違いがあるんですか？

ドラッグやアルコール類は高いリスクを取ることに影響を及ぼしていますか？〔答えがはいの場合〕それについて話してください。

セイファーなセックスを話し合ったり、それを要望したりすることに困難さを感じる特定な人はいますか？

コンドームの使用が一番難しいセックスパートナーは誰ですか？

これまでの生活の中で、自分を守ったり、セイファーセックスをしたりすることが困難に感じられた時〔鬱状態／失業中／誰かと別れたばかり〕はありましたか？

リスク行為を増やしてしまいそうな出来事があるならば、それについて話してください。

リスクに関してのクライアントの友人／パートナーとのコミュニケーションについて探る。

STDやHIVのリスク低減についてセックスパートナーと話し合ったとき、どんな感じでしたか？

誰がそれについて話そうとしたんですか？それについてどう感じましたか？

STDやHIVのリスクについて友達とはどんな話をしますか？

クライアントが受認できるリスクのレベルについて話し合う。

あなたが取っているリスクは自分で納得がいくものですか？

〔もし答えがはいの場合〕何に納得がいくと思えますか？〔もし答えがはいの場合〕このことはHIV感染リスクがあります、そしてそれに納得がいくといっているわけですね。

どの行為のところに線を引きますか？どういった行為がリスクが高すぎると思えますか？

リスク低減に向けてのあやふやな感情や、クライアントが信じていることと行為との間だの矛盾を明確にしたうえで話し合いをする。

あなたが納得がいくといった行為にはHIVに感染するリスクがありますが、同時にHIV感染が気になっていると言っています。このことを理解する必要があります。

クライアントの持つSTDやHIVへのリスクについてフィードバックを提供する。

お聞きした話によると、STDやHIVに感染の危険性のある____ [かなりの数の/いくつかの/2, 3の] 状況があったようですね。そのことについて今日ここで一緒に考えて行くことが非常に大切だと思います。リスクのある状況を考えてみたり、それについて話をしたりすることで、今日あなたは自分を守るための一歩を踏み出したわけです。

クライアントが提供した情報をまとめる。

これが私が理解したあなたのSTDやHIVへのリスクです。

[クライアントが話した内容を明確になぞりながら、クライアントの持つ問題と状況の関係づけ、そしてクライアントによって提示された本質的な諸問題をまとめる。]

リスク行動のパターンに注目する。

これらのリスクのある状況がどれくらい頻回に起こったかを考えてみましょう。まず、____ [リスクが低減できた状況をリストアップする] こういった時は、自分を守ることができたんですね。しかし、____ [状況のリスト] この時は、ちょっとしたことで、リスクのある行為をしてしまったということですね。この違いを理解することは大切なことです。

きっかけとなることや脆弱性を明確にする。

最近あなたの生活の中でいくつかのことが起こっていて、例えば [リスト]、それがリスクに影響を及ぼしているようです。

人間関係を考えると、重要な問題があるようですね、例えば [リスト]。将来において、人間関係/生活が、____ [描写] になって欲しいと思っています。

リスク行為に影響を及ぼすいくつかの問題があります。[特定の行為/コミュニケーション/薬物の使用/のリスト]

____ [アルコールを飲んだとき/バーに行ったとき/旅行をしているとき/恋に落ちたとき/新しい人と出会ったとき] にリスクのある行為をしてしまう脆弱さがでてしまうようですね。

これが自分のリスク行為をどうとらえているかということですか？他に話す必要のある問題はありますか？これはあなたにとって意味をなすものですか？

クライアントが信じていることと行為自体との間だの矛盾や、行動変容についての整理のつかない感情を確認し話し合う。

あなたは本当に____ したいと思っているんですね、でも現在の状況をどう変えていけばいいのか想像がつかないということなんですね。このことにどう取り組んでいけばいいと思っていますか？

自分で取っても良いと思えるリスクのレベルがあるようですね。また同時にSTDやHIVの感染が気がかりだとおっしゃってます。私はこのことを理解したいので、手助けをお願いします。

クライアントのリスクの緊急性や懸念を伝える (適切な範囲で)

もしあなたがこれらの問題に取り組んで行かなければ、リスクのある行為をとり続けてゆくゆくはHIVに感染をしてしまうかもしれません。

あなたの持っているSTDやHIVのリスクが気懸かりです。

クライアントのリスク問題との取り組みに勇気づけや支援をする。

STDクリニックに来院したこと、HIV抗体検査を受けうること、このプロジェクトに参加すること、これらはリスク行為への取り組みの第一歩です。

次に医師か検査技師に会うことをクライアントに教えてください。そしてクライアントが結果の告知のために、カウンセラーのところへ帰ってくるように準備を整えてください。

これから [医師/検査技師] に会っていただきます。それが終了したら、ここへ帰ってきてください。その時検査の結果と、これからの計画について話をします。

カウンセラーは次のことをしなければならない：

- これで検査前のカウンセリングが終了したことを告げ、採血や検査時に二人で話し合った問題について考えて欲しいと伝える。
- ここへ戻ってきたとき、HIVの検査結果を受け取って、次にカウンセラーとリスク低減計画について話し合うことを、再度確認する。

-
- 採血室やラボ、あるいは待合室への道順を明確に伝える。
 - STD専門医の診察が終わったあと、検査結果でいなかったり、カウンセラーがすぐに対応できない場合は、何処で待ってもらうのかを伝える。

クライアントが帰ってきたことへの謝意を告げる

よく戻ってきてくれました。どうぞ入ってすわってください。

検査結果をはっきりと飾らずに伝える。

それでは検査の結果を見てみましょう、そして結果の最良の理解について話し合しましょう。

結果は陰性でした。それはあなたはHIVに感染していないということを意味します。

結果の意味について再考する。

このことは少なくとも3カ月前の時点においての結果ですから、[月日]以前においてあなたは感染をしていないということを意味します。

しかし、きょう治療を受けたSTDに感染したときのことに関しては、今回の検査では解らないということになります。

クライアントの結果への反応をアセスメントする。

HIVには多分感染していないという結果を受け取られたわけですが、どう感じていますか？

この検査結果はあなたにとってどんな意味がありますか？

検査結果を最も最近あったリスク行為と関連づけて考慮する必要性に注目する。

今日診断を受けたSTDの原因となったことが先週あったとしますね。そうするともう一度HIVの検査を[月日]に受けることを考えてみてください。

最も最近にあったリスクのことを考えると、もう一度検査受けるの必要性を感じますか？何処で検査を受けますか？

HIVのリスクの査定と検査結果との関連において、STDの診断と検診の経験について注意を向ける。

STD専門看護師にあってたりSTDの検診を受けるということ、そしてこの検査結果を受け取るということは、どういった経験でしたか？

STDに罹ったということは、HIVに対するあなたの気持ちや、HIVに感染してしまうかもしれないあなたのリスクに対してどういった影響を及ぼしていますか？

注意事項：医師から治療を受けた後、クライアントは検査結果を受け取ることによって不安を抱いていることを覚えておくこと。クライアントを暖かく迎えてセッションを始めること。STDの検診をどう経験しどんな反応を示しているのかをアセスメントし、そこから得られた情報をセッションの中に適切に組み入れていくこと。

クライアントが帰ってきたことへの謝意を告げる

よく戻ってきてくれました。どうぞ入ってすわってください。

スクリーニング検査の結果をはっきりと飾らずに伝える。

スクリーニング検査の結果は陽性でした。それは、[HIVに感染しているであろうということ/HIV感染の可能性が大変高い]ということの意味します。

スクリーニング検査の結果の意味について再考する。

スクリーニング検査の結果が陽性だったとき、確実に陽性なのかを判定する前に、もう一度確認検査をしなければなりません。

クライアントのリスクのアセスメントとスクリーニング検査の結果とを結合させる。

考えられるHIVへの暴露について私たちが話し合った内容を考慮すると、この検査結果は、あなたがHIVに感染したかどうかを正確に反映しているともいえるし、そうでないともいえます。

クライアントに検査結果の意味を理解する時間を持ってもらう。

時間はゆっくりとってください。結果について話し合う時間は充分にありますよ。

クライアントの検査結果の意味の理解について探索する。

この結果をどのように理解されていますか？

この結果はあなたにとってどんな意味があるのでしょうか？

クライアントが検査結果とどのように対処しているのかをアセスメントする。

検査結果についてどのように感じていますか？

陽性検査結果と対処することの困難さを認識し適切な支援を提供する。

HIVに感染したという可能性と対処することは、とても難しいことだと思います。どうですか？

このことに対処するにあたって、あなたのサポートになってくれる人は誰ですか？

確認検査の結果を受け取りに来ることの重要性を強調する。

これまでのリスク行為に関わらず、確認検査の結果を受け取りに来ることは、大変重要なことです。

確認検査の結果受け取りに関してクライアントと約束を結ぶ。

[日にち]に確認検査の結果を受け取りに来ることを約束できますか？

もしいろんな事情で来られない場合は、電話を頂けますか？

確認検査の結果を確実に受け取れるようにするため、あなたの連絡先の確認をさせてください。[住所/電話番号の確認]

リスク低減行為に優先順位をつける。

HIV陰性であり続けるための計画について話し合しましょう。

優先順位を考えることは大切なことです。リスクを低減していくために取り組んでいかなければならない最も大切な問題や状況には何がありますか？

今日私たちが話したなかで、あなたをSTDやHIV感染のリスクにさらしてしまうものはなんだと思いますか？

クライアントが最も動機づけられまた変容する能力を持っていると思われる行為を探索する。

どうすればいちばんSTDやHIVのリスクを低減できると思いますか？陰性であり続けるためどうすればいいと思いますか？

リスクを低減するためには妥当な範囲で何ができると思いますか？

[もしクライアントが行動変容で“常に”や“決して”という言葉を選んだとき]

あなたがリスクを全部無くしてしまおうとしていることはすごいことだと思います。でも私たちは変化ということは小さな単位で起こっていくことを知っています。このゴールを達成するための最初のステップはなんですか？これは達成困難なことです。小さなステップを取ってみましょう、小さな変化がやがては大きな変化に繋がります。

[クライアントがどうすればリスクを低減できるかについて途方に暮れている場合]

リスクを低減するためにはこういったオプションがあると思います。[幅の広い選択肢を提示する]

認識された行為の変容に向けての妥当性がありかつ挑戦的なステップを明確にする。

次の週に完結する小さなステップでいいのですが、ゆくゆくはSTDやHIVの感染の低減に少しでも近づくようなことで、何か思いつくものはありますか？

リスク低減の行動を特定のかつ具体的なステップに分ける。

ここであなたがやりたいと思うことがはっきりしてきましたね。それではその実現に向けてどういったことから取り組みたいと思っていますか？

まず第一番目に、二番目に、そして三番目には、何を必要があると思いますか？いつそれが出ると思いますか？

計画の実行においての問題解決方法

ステップを遂行していく上でそれを困難にしてしまうものには何があると思いますか？

もし何か[特定する]が計画の実行にじゃまをするようなことが起こった場合、どう対処しますか？第二案にはどういったものが考えられますか？

プランのロールプレイ

そのことにどう対処するかここで練習をしてみましょう。

私をあなたのパートナーと思ってください。何ていいますか？役割を交替してみましょう。

リスク低減のステップに支援となるものを明確にする。

どのような手助けがあればもっと簡単になりますか？この試みにおいて誰が支援を提供してくれそうですか？

もしこのステップが完了したら、どういうふうに感じると思いますか？

立案した計画はクライアントにとって妥当性がありかつ受容できるものかの確認を取る。

このプランはあなたにとって納得のいくものですか？これはあなたにとって現実的なものですか？もし必要があれば、もう一度このプランを考え直すこともできます。

このプランの実行に努力をするということはあなたにとってとても良いことだと思います。このプランの実行にどれくらいコミットしていますか？

プランの実行の中でその優れている点や弱点に気付くよう努力することを依頼する。

このプランの中で何がうまくいって、何がうまくいかないかを観察してください。

リスク低減計画を紙に書き、コピーを保管する。

詳細な内容がいつも手元にあるようにするため、あなたの計画をこのアポイントカードに書き出してみよう。